

発行にあたって

本資料集は『法学新報』から中央大学関係記事を採録した第十七集以降のシリーズの一一冊目にあたります。この第二十七集では、一九二五（大正十四）年度刊行の『法学新報』第三五巻第四号から第三六巻第三号までの一二冊から、中央大学関係記事三九件を抜粋・採録しました。

この時期の本学は、創立の地である神田錦町から、のちの駿河台校舎での発展を目指していました。これまでの校地が大学としての充実、学生数の増加などにより狭隘となり、一層の充実を目指して神田区南甲賀町の戸田氏共（ユヅキ）伯爵邸跡地を購入、駿河台校舎の新築を開始したのです。

これは創立者の一人である江木衷と学長の岡野敬次郎を病気で失うという事態を乗り越えての出来事でした。

また、一九二六年一月の箱根駅伝（当時は七大校対抗駅伝競走）の初優勝は、岡野学長を偲んで黒の縁取りの応援旗を掲げて勝ち取ったものですが、各運動部の活躍を背景として、所沢に運動場用地を購入、本格的な陸上競技場が建設されることとなります。

一方、一九二五年四月に学校の軍隊化や学生思想の取締りを目的とした陸軍現役将校学校配属令が出され、全国の中等学校以上の学校に現役将校を配属して教練を振作することになりました。本学へも現役将校が派遣され、九月から軍事教練が開始されました。

前集から引き続き、図書館報告には多くの図書や雑誌の購入、寄贈の記録が見られます。同時に当時の学生の図書館利用の状況を、閲覧人員及び貸出冊数などから知ることができます。

駿河台時代の幕開けの様子を知ることができる資料集です。

二〇一五年三月

中央大学史料委員会専門委員会主査

菅原彬州